

令和3年度 年間授業計画（シラバス）

| | | | | | | |
|--------------------------|---|------|----------|---------|------------|---------|
| 学科名 | 福祉保育科 | | | 教科名 | 音楽表現技術（器楽） | |
| コース名 | 幼児保育コース | | | 担当者 | 大澤 | |
| 学 年 | 2年 | | | 教科番号 | 2701 | 単位数 0.5 |
| 授業形態 | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 必修・選択の別 | | 必修 |
| | | | ○ | | | |
| 授業概要 | ピアノ個人レッスン | | | | | |
| 到達目標 | ピアノの基礎演奏技術の習得を目標とする。保育現場ですぐに活用できる、日常保育曲や音楽リズム曲の弾き歌いができるようにする。幼児歌・実習園指定曲の弾き歌いの修得を目標にレッスンを行う。 | | | | | |
| 教材名 | 音楽・ピアノ教本（近畿大学教本） こどものうた100（チャイルド本社） 続こどものうた200（チャイルド本社） 授業内でプリント配布 | | | | | |
| 資格の 取得目標 | なし | | | | | |
| 授業内容と 教員の実務経 験の関連性 | 幼稚園教諭とリトミック指導員の経験を有する教員がその経験を活かし、ピアノの指導を行う | | | | | |
| 履修に あたっての 留意点 | 毎日課題曲1曲×5分の個人練習を行うよう心がけましょう。授業開始20分以降の遅刻は欠席扱いとなります。 | | | | | |
| 評価基準 | ①試験・検定 | ②提出物 | ③授業態度 | ④出席状況 | ⑤外部評価 | 合計 |
| 割 合 | 30% | 0% | 35% | 35% | 0% | 100% |

| 回数 | 講義内容 |
|----|--------|
| 1 | 試験対策練習 |
| 2 | 試験対策練習 |
| 3 | 試験対策練習 |
| 4 | 試験対策練習 |

令和3年度 年間授業計画（シラバス）

| | | | | | | |
|--------------------------|--|------|----------|---------|------------|------------|
| 学科名 | 福祉保育科 | | | 教科名 | 音楽表現技術（声楽） | |
| コース名 | 幼児保育コース | | | 担当者 | 横尾 | |
| 学 年 | 2年 | | | 教科番号 | 2702 | 単位数 0.5 |
| 授業形態 | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 必修・選択の別 | | 必修 |
| | | | ○ | | | |
| 授業概要 | 絵本読み聞かせ/発声練習/コールユーブンゲン/コンコーネ/わらべ歌・手あそび・童謡/リズム/アンサンブル等、各項目のまとめ、及び、コンコーネ・コールユーブンゲンの試験。 | | | | | |
| 到達目標 | <p>【保育のための音楽技術の習得、資質の向上】</p> <p>基礎力、テクニック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムを聴いて、即座に模倣できる・リズム譜を見て、正確に打つことができる・簡単なリズムを創作することができる・楽譜を正確に読めて、正確なリズム・音程で歌うことができる・拍子を感じて歌える・フレーズを感じて歌うことができる・曲のニュアンスをややマ場を感じて歌うことができる・伴奏付けに必要な、和音・コードネームを理解する・基本的な楽器奏法ができ、ふさわしい音色で演奏できる・互いの音を聴きながら、楽しくアンサンブルできる <p>表現力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら音楽を楽しんでいる・歌詞を理解しイメージを膨らませて味わうことができる・心に感じたことを心を込めて歌うことができる・豊かな想像力を持ち、自分独自の表現力がある <p>指導力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもを音楽にひきつける力を持っている・コミュニケーションの力がある ・遊びを促す合図や、展開ができる・弾き歌いができる | | | | | |
| 教材名 | <p>音楽Ⅰ《声楽教本》</p> <p>※併用教材（「こどものうた200」「続こどものうた200」「こどものうた100」/チャイルド本社、たのしくおどろう手あそびうた/（成美堂出版）/その他、必要に応じてコピー配布</p> | | | | | |
| 資格の 取得目標 | | | | | | |
| 授業内容と 教員の実務経 験の関連性 | 楽器メーカーで音楽指導者としての経験を有する教員がその経験を活かし、声楽の指導を行う | | | | | |
| 履修に あたっての 留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・保育現場で、すぐに実践できる音楽技術・表現力・指導力を身に着けること。 ・各自、積極的に授業を受け、実践し、保育のための音楽面の基礎力・テクニック・表現力・指導力において、各自の課題を見つけ努力し、成果が見られること。 | | | | | |
| 評価基準 | ①試験・検定 | ②提出物 | ③授業態度 | ④出席状況 | ⑤外部評価 | 合計 |
| 割 合 | 25% | 0% | 25% | 50% | 0% | 100% |

| 回数 | 講義内容 |
|----|--|
| 1 | 読み聞かせ/手遊び・わらべ歌/ソルフェージュ/ストレッチ・発声/リズム活動/コールユーブンゲン・コンコーネ試験曲、全体レッスン及び個人レッスン/童謡/アンサンブル等各項目のまとめ。 |
| 2 | 読み聞かせ/手遊び・わらべ歌/ソルフェージュ/ストレッチ・発声/リズム活動/コールユーブンゲン・コンコーネ試験曲、全体レッスン及び個人レッスン/童謡/アンサンブル等各項目のまとめ。 |
| 3 | 試験曲個人レッスン。授業の補足事項。 |
| 4 | 声楽試験の実施。授業の補足事項とまとめ。 |

令和3年度 年間授業計画（シラバス）

| | | | | | | |
|--------------------------|---|------|----------|---------|----------|---------|
| 学科名 | 福祉保育科 | | | 教科名 | ピアノレッスンⅢ | |
| コース名 | 幼児保育コース | | | 担当者 | 大澤 | |
| 学 年 | 2年 | | | 教科番号 | 2703 | 単位数 3.5 |
| 授業形態 | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 必修・選択の別 | 必修 | |
| | | | ○ | | | |
| 授業概要 | ピアノ個人レッスン | | | | | |
| 到達目標 | ピアノの基礎演奏技術の習得を目標とする。保育現場ですぐに活用できる、日常保育曲や音楽リズム曲の弾き歌いができるようにする。幼児歌・実習園指定曲の弾き歌いの修得を目標にレッスンを行う。 | | | | | |
| 教材名 | 音楽・ピアノ教本（近畿大学教本） こどものうた100（チャイルド本社） 続こどものうた200（チャイルド本社） 授業内でプリント配布 | | | | | |
| 資格の 取得目標 | なし | | | | | |
| 授業内容と 教員の実務経 験の関連性 | 幼稚園教諭とリトミック指導員の経験を有する教員がその経験を活かし、ピアノの指導を行う | | | | | |
| 履修に あたっての 留意点 | 毎日課題曲1曲×5分の個人練習を行うよう心がけましょう。授業開始20分以降の遅刻は欠席扱いとなります。 | | | | | |
| 評価基準 | ①試験・検定 | ②提出物 | ③授業態度 | ④出席状況 | ⑤外部評価 | 合計 |
| 割 合 | 30% | 0% | 35% | 35% | 0% | 100% |

| 回数 | 講義内容 |
|----|---|
| 1 | ①おはようのうた ②あさのうた ③おべんたうのうた ④おかえりのうた ⑤さようならのうた |
| 2 | ①おねむりのうた ②はをみがきましょう ③どこでしょう |
| 3 | ①おねむりのうた ②はをみがきましょう ③どこでしょう |
| 4 | ①かえるのうた ②かたつむり ③あまだれポットン ④あめふりくまのこ ⑤とけいのうた ⑥ことりのうた ⑦おつかいありさん ⑧ありさんのおはなし ⑨七夕 |
| 5 | ①かえるのうた ②かたつむり ③あまだれポットン ④あめふりくまのこ ⑤とけいのうた ⑥ことりのうた ⑦おつかいありさん ⑧ありさんのおはなし ⑨七夕 |
| 6 | ①かえるのうた ②かたつむり ③あまだれポットン ④あめふりくまのこ ⑤とけいのうた ⑥ことりのうた ⑦おつかいありさん ⑧ありさんのおはなし ⑨七夕 |
| 7 | ①かえるのうた ②かたつむり ③あまだれポットン ④あめふりくまのこ ⑤とけいのうた ⑥ことりのうた ⑦おつかいありさん ⑧ありさんのおはなし ⑨七夕 ⑩実習園課題曲 |
| 8 | ①かえるのうた ②かたつむり ③あまだれポットン ④あめふりくまのこ ⑤とけいのうた ⑥ことりのうた ⑦おつかいありさん ⑧ありさんのおはなし ⑨七夕 ⑩実習園課題曲 |
| 9 | ①かえるのうた ②かたつむり ③あまだれポットン ④あめふりくまのこ ⑤とけいのうた ⑥ことりのうた ⑦おつかいありさん ⑧ありさんのおはなし ⑨七夕 ⑩実習園課題曲 |
| 10 | ①かえるのうた ②かたつむり ③あまだれポットン ④あめふりくまのこ ⑤とけいのうた ⑥ことりのうた ⑦おつかいありさん ⑧ありさんのおはなし ⑨七夕 ⑩実習園課題曲 |
| 11 | ①かえるのうた ②かたつむり ③あまだれポットン ④あめふりくまのこ ⑤とけいのうた ⑥ことりのうた ⑦おつかいありさん ⑧ありさんのおはなし ⑨七夕 ⑩実習園課題曲 |
| 12 | ①かえるのうた ②かたつむり ③あまだれポットン ④あめふりくまのこ ⑤とけいのうた ⑥ことりのうた ⑦おつかいありさん ⑧ありさんのおはなし ⑨七夕 ⑩実習園課題曲 |
| 13 | ①おはようのうた ②あさのうた ③おべんたうのうた ④おかえりのうた ⑤さようならのうた |
| 14 | ①虫の声 ②大きな栗の木の下で ③やきいもグーチャーパー ④まつぼっくり ⑤とんぼのめがね ⑥どんぐりころころ ⑦バスごっこ ⑧山の音楽家 ⑨たき火 |
| 15 | ①虫の声 ②大きな栗の木の下で ③やきいもグーチャーパー ④まつぼっくり ⑤とんぼのめがね ⑥どんぐりころころ ⑦バスごっこ ⑧山の音楽家 ⑨たき火 |
| 16 | ①虫の声 ②大きな栗の木の下で ③やきいもグーチャーパー ④まつぼっくり ⑤とんぼのめがね ⑥どんぐりころころ ⑦バスごっこ ⑧山の音楽家 ⑨たき火 |
| 17 | ①虫の声 ②大きな栗の木の下で ③やきいもグーチャーパー ④まつぼっくり ⑤とんぼのめがね ⑥どんぐりころころ ⑦バスごっこ ⑧山の音楽家 ⑨たき火 |
| 18 | ①虫の声 ②大きな栗の木の下で ③やきいもグーチャーパー ④まつぼっくり ⑤とんぼのめがね ⑥どんぐりころころ ⑦バスごっこ ⑧山の音楽家 ⑨たき火 |
| 19 | ①虫の声 ②大きな栗の木の下で ③やきいもグーチャーパー ④まつぼっくり ⑤とんぼのめがね ⑥どんぐりころころ ⑦バスごっこ ⑧山の音楽家 ⑨たき火 |
| 20 | ①虫の声 ②大きな栗の木の下で ③やきいもグーチャーパー ④まつぼっくり ⑤とんぼのめがね ⑥どんぐりころころ ⑦バスごっこ ⑧山の音楽家 ⑨たき火 ⑩実習園課題曲 |
| 21 | ①虫の声 ②大きな栗の木の下で ③やきいもグーチャーパー ④まつぼっくり ⑤とんぼのめがね ⑥どんぐりころころ ⑦バスごっこ ⑧山の音楽家 ⑨たき火 ⑩実習園課題曲 |
| 22 | ①虫の声 ②大きな栗の木の下で ③やきいもグーチャーパー ④まつぼっくり ⑤とんぼのめがね ⑥どんぐりころころ ⑦バスごっこ ⑧山の音楽家 ⑨たき火 ⑩実習園課題曲 |
| 23 | ①虫の声 ②大きな栗の木の下で ③やきいもグーチャーパー ④まつぼっくり ⑤とんぼのめがね ⑥どんぐりころころ ⑦バスごっこ ⑧山の音楽家 ⑨たき火 ⑩実習園課題曲 |
| 24 | ①虫の声 ②大きな栗の木の下で ③やきいもグーチャーパー ④まつぼっくり ⑤とんぼのめがね ⑥どんぐりころころ ⑦バスごっこ ⑧山の音楽家 ⑨たき火 ⑩実習園課題曲 |
| 25 | 試験曲公示 |
| 26 | 試験対策練習 |
| 27 | 試験対策練習 |
| 28 | 試験対策練習 |

令和3年度 年間授業計画（シラバス）

| | | | | | | |
|--------------------------|--|------|----------|---------|--------|---------|
| 学科名 | 福祉保育科 | | | 教科名 | 声楽レッスン | |
| コース名 | 幼児保育コース | | | 担当者 | 横尾 | |
| 学 年 | 2年 | | | 教科番号 | 2704 | 単位数 1.5 |
| 授業形態 | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 必修・選択の別 | | 必修 |
| | | | ○ | | | |
| 授業概要 | 絵本読み聞かせ／発声練習／コールユーブンゲン／コンコーネ／わらべうた・遊び歌・童謡／リズム／楽器奏法・アンサンブル | | | | | |
| 到達目標 | <p>【保育のための音楽技術の習得、資質の向上】</p> <p>基礎力、テクニック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムを聴いて、即座に模倣できる・リズム譜を見て、正確に打つことができる・簡単なリズムを創作することができる・楽譜を正確に読めて、正確なリズム・音程で歌うことができる・拍子を感じて歌える・フレーズを感じて歌うことができる・曲のニュアンスをややマ場を感じて歌うことができる・伴奏付けに必要な、和音 ・コードネームを理解する・基本的な楽器奏法ができ、ふさわしい音色で演奏できる・互いの音を聴きながら、楽しくアンサンブルできる <p>表現力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら音楽を楽しんでいる・歌詞を理解しイメージを膨らませて味わうことができる・心に感じたことを心を込めて歌うことができる・豊かな想像力を持ち、自分独自の表現力がある <p>指導力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもを音楽にひきつける力を持っている・コミュニケーションの力がある ・遊びを促す合図や、展開ができる・弾き歌いができる | | | | | |
| 教材名 | <p>音楽Ⅰ《声楽教本》</p> <p>※併用教材（「こどものうた200」「続こどものうた200」「こどものうた100」／チャイルド本社、たのしくおどろう手あそびうた／（成美堂出版）／その他、必要に応じてコピー配布</p> | | | | | |
| 資格の 取得目標 | | | | | | |
| 授業内容と 教員の実務経 験の関連性 | 楽器メーカーで音楽指導者としての経験を有する教員がその経験を活かし、声楽の指導を行う | | | | | |
| 履修に あたっての 留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の模範となる自然な発声と発音、正確な読譜・音程・リズム幼児と音楽を楽しく共有するに相応しい、コミュニケーション能力、及び豊かなイメージや感性を伴った音楽表現力 ・授業のポイント、自分に必要と思われるポイントのメモを取ることも評価の対象とする。授業の復習が行われているかどうか、評価の対象とし、実践力の定着を図る。 | | | | | |
| 評価基準 | ①試験・検定 | ②提出物 | ③授業態度 | ④出席状況 | ⑤外部評価 | 合計 |
| 割 合 | 25% | 0% | 25% | 50% | 0% | 100% |

| 回数 | 講義内容 |
|----|--|
| 1 | 読み聞かせ/手遊び・わらべ歌/ソルフェージュ/ストレッチ・発声/リズム活動/コールユーブンゲン シンコ ペーション/コンコーネNo.4/童謡/アンサンブル |
| 2 | 読み聞かせ/手遊び・わらべ歌/ソルフェージュ/ストレッチ・発声/リズム活動/コールユーブンゲン 上拍/コ ンコーネNo.4/童謡/アンサンブル |
| 3 | 読み聞かせ/手遊び・わらべ歌/ソルフェージュ/ストレッチ・発声/リズム活動/コールユーブンゲン 6度音程 /コンコーネNo.4/童謡/アンサンブル |
| 4 | 読み聞かせ/手遊び・わらべ歌/ソルフェージュ/ストレッチ・発声/リズム活動/コールユーブンゲン 6度音程 /コンコーネNo.5/童謡/アンサンブル |
| 5 | 読み聞かせ/手遊び・わらべ歌/ソルフェージュ/ストレッチ・発声/リズム活動/コールユーブンゲン 6度音程 /コンコーネNo.5/童謡/アンサンブル |
| 6 | 読み聞かせ/手遊び・わらべ歌/ソルフェージュ/ストレッチ・発声/リズム活動/コールユーブンゲン 7度音程 /コンコーネNo.5/童謡/アンサンブル |
| 7 | 読み聞かせ/手遊び・わらべ歌/ソルフェージュ/ストレッチ・発声/リズム活動/コールユーブンゲン 7度音程 /コンコーネNo.6/童謡/アンサンブル |
| 8 | 読み聞かせ/手遊び・わらべ歌/ソルフェージュ/ストレッチ・発声/リズム活動/コールユーブンゲン 7度音程 /コンコーネNo.6/童謡/アンサンブル |
| 9 | 読み聞かせ/手遊び・わらべ歌/ソルフェージュ/ストレッチ・発声/リズム活動/コールユーブンゲン長調・短 調・転調/コンコーネNo.6/童謡/アンサンブル |
| 10 | 読み聞かせ/手遊び・わらべ歌/ソルフェージュ/ストレッチ・発声/リズム活動/コールユーブンゲン 長調・短 調・転調/コンコーネ復習/童謡/アンサンブル |
| 11 | 読み聞かせ/手遊び・わらべ歌/ソルフェージュ/ストレッチ・発声/リズム活動/コールユーブンゲン 長調・短 調・転調/コンコーネ復習/童謡/アンサンブル |
| 12 | 読み聞かせ/手遊び・わらべ歌/ソルフェージュ/ストレッチ・発声/リズム活動/コールユーブンゲン 試験曲 決め/コンコーネ復習/童謡/アンサンブル |
| 13 | 読み聞かせ/手遊び・わらべ歌/ソルフェージュ/ストレッチ・発声/リズム活動/コールユーブンゲン 試験曲 決め/コンコーネ試験曲決め/童謡/アンサンブル |
| 14 | 読み聞かせ/手遊び・わらべ歌/ソルフェージュ/ストレッチ・発声/リズム活動/コールユーブンゲン 試験曲 決め/コンコーネ試験曲決め/童謡/アンサンブル |
| 15 | 読み聞かせ/手遊び・わらべ歌/ソルフェージュ/ストレッチ・発声/リズム活動/コールユーブンゲン 試験曲/ コンコーネ試験曲/童謡/アンサンブル |
| 16 | 読み聞かせ/手遊び・わらべ歌/ソルフェージュ/ストレッチ・発声/リズム活動/コールユーブンゲン 試験曲/ コンコーネ試験曲/童謡/アンサンブル |

令和3年度 年間授業計画（シラバス）

| | | | | | | |
|--------------------------|---|------|----------|---------|-------|---------|
| 学科名 | 福祉保育科 | | | 教科名 | 社会福祉 | |
| コース名 | 幼児保育コース | | | 担当者 | 森下 | |
| 学 年 | 2年 | | | 教科番号 | 2706 | 単位数 4.0 |
| 授業形態 | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 必修・選択の別 | | 必修 |
| | ○ | | | | | |
| 授業概要 | 子どもの保育、教育に携わる人材となるために必要な社会福祉の知識について幅広く学ぶ。 | | | | | |
| 到達目標 | ①現代社会の状況を踏まえ、人々が直面する生活課題について説明できる。 ②社会福祉の様々な法制度、実施体制について説明できる。 ③生活課題に対して活用できる社会福祉サービスについて説明できる。 ④社会福祉専門職として、保育士はじめ他の専門職の役割について説明できる。 | | | | | |
| 教材名 | 相澤譲治・杉山博昭編『八訂 保育士を目指す人の社会福祉』みらい、2018年 | | | | | |
| 資格の 取得目標 | | | | | | |
| 授業内容と 教員の実務経 験の関連性 | 保健所にて発達相談員経験と大学での実習指導経験を有する教員がその経験を活かし社会福祉の基礎理論や近大のレポート及び科目終末試験の指導を行う | | | | | |
| 履修に あたっての 留意点 | 学期末試験を実施する。講義で扱うさまざまな法制度やサービスと関連して考察できるよう、時事問題に関心を持って授業に臨むこと。 | | | | | |
| 評価基準 | ①試験・検定 | ②提出物 | ③授業態度 | ④出席状況 | ⑤外部評価 | 合計 |
| 割 合 | 60% | 10% | 10% | 20% | 0% | 100% |

| 回数 | 講義内容 |
|----|--|
| 1 | 授業に関するガイダンス、及びなぜ社会福祉が必要かについて考える |
| 2 | 保育と社会福祉 社会福祉サービスとしての保育、子どもたちを取り巻く状況 |
| 3 | 保育と社会福祉 社会福祉を学ぶ視点、人権尊重とノーマライゼーション |
| 4 | 我が国の社会福祉の歴史 戦前の社会福祉 |
| 5 | 我が国の社会福祉の歴史 戦後の社会福祉、第二次世界大戦後から高度経済成長期 |
| 6 | 我が国の社会福祉の歴史 戦後の社会福祉、低成長期から福祉見直し、改革期へ |
| 7 | 保育のたどった道すじ 戦前、戦時下、戦後の保育 |
| 8 | 社会福祉の意味と考え方 社会福祉という意味 |
| 9 | 社会福祉の意味と考え方 社会福祉の法体系 |
| 10 | 社会福祉の実施体制と財源 社会福祉の公的機関 |
| 11 | 社会福祉の実施体制と財源 社会福祉の民間団体 |
| 12 | 社会福祉の実施体制と財源 社会福祉サービスの種類と実施方法、社会福祉の財源 |
| 13 | 社会保障制度 生存権と社会保障制度 社会保険とは、年金保険制度 |
| 14 | 社会保障制度 医療保険、労働保険の概要 |
| 15 | 社会保障制度 公的扶助制度の意味と内容 |
| 16 | 社会保障制度 保護施設、社会手当、生活困窮者自立支援制度 |
| 17 | 子ども家庭福祉 権利主体としての子ども、子どもと家族のための福祉サービス |
| 18 | 子ども家庭福祉 少子化と次世代育成支援、子ども子育て家庭への支援 |
| 19 | 障害者福祉 障害のある人の福祉とは、障害のとらえ方と定義 |
| 20 | 障害者福祉 障害のある人の福祉サービスと施策、福祉法体系、サービス提供システム |
| 21 | 障害者福祉 障害のある人の福祉サービスと施策、障害のある人の地域生活支援、経済保障 |
| 22 | 高齢者福祉 高齢社会とは、高齢者の生活課題と福祉ニーズ |
| 23 | 高齢者福祉 高齢者の福祉・保健サービス |
| 24 | 高齢者福祉 高齢者福祉の動向 |
| 25 | 地域福祉 地域福祉とは、地域福祉の推進機関と団体、担い手 |
| 26 | 地域福祉 地域福祉の活動、地域福祉活動の具体的展開、地域福祉計画と地域福祉支援計画 |
| 27 | 社会福祉の専門職と倫理 福祉専門職としての保育士、社会福祉に関わる専門職、専門職の倫理 |
| 28 | 保育士とソーシャルワーク ソーシャルワークをになる保育士、ソーシャルワーカーとしての保育士の機能 |
| 29 | 利用者の権利擁護 権利擁護とは、人間の基本的権利、生存権と自由権、子どもの権利 |
| 30 | 利用者と権利擁護 苦情解決制度、福祉サービス利用援助事業、サービス評価制度 |
| 31 | 授業の総括、重要ポイントの確認 |
| 32 | 試験 |

令和3年度 年間授業計画（シラバス）

| | | | | | | |
|--------------------------|--|------|----------|---------|---------|---------|
| 学科名 | 福祉保育科 | | | 教科名 | 子ども家庭福祉 | |
| コース名 | 幼児保育コース | | | 担当者 | 野澤 | |
| 学 年 | 2年 | | | 教科番号 | 2707 | 単位数 2.5 |
| 授業形態 | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 必修・選択の別 | | 必修 |
| | ○ | △ | | | | |
| 授業概要 | <p>子どもの権利条約が国連で採択された後も、子どもの貧困や虐待等、子どもの権利侵害の事例は依然として後を断たない。子ども家庭福祉では、子ども家庭福祉の歴史の変遷、現状と課題、動向と展望のほか、子どもの権利や発達を保障するための仕組み、諸制度、支援方法など、保育者として必要となる子ども家庭福祉に関する内容が体系的に学べるように進めていく。また、福祉施設での実習も念頭に置き、現場で役立つ知識の習得を目指す。</p> | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷を理解する。 2. 子ども家庭福祉と保育との関連性及び子どもの人権について理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 子ども家庭福祉の現状・課題・動向・展望について理解する。 | | | | | |
| 教材名 | 適宜プリントを配布 | | | | | |
| 資格の 取得目標 | 保育士資格取得のための必須科目であるため、単位取得を目指す | | | | | |
| 授業内容と 教員の実務経 験の関連性 | 大学教員がその経験を活かし、子ども家庭福祉に関する講義を行う | | | | | |
| 履修に あたっての 留意点 | 毎回の授業において子ども家庭福祉領域において重要な事項を説明するため、休まず出席すること。 | | | | | |
| 評価基準 | ①試験・検定 | ②提出物 | ③授業態度 | ④出席状況 | ⑤外部評価 | 合計 |
| 割 合 | 60% | 0% | 20% | 20% | 0% | 100% |

| 回数 | 講義内容 |
|----|--------------------------------------|
| 1 | オリエンテーションー子ども家庭福祉領域への誘いー |
| 2 | 子ども家庭福祉の理念と権利保障 |
| 3 | 子ども家庭福祉の現状と課題(1)ー子育て支援の現状ー |
| 4 | 子ども家庭福祉の現状と課題(2)ー健全育成ー |
| 5 | 子ども家庭福祉の現状と課題(3)ー児童虐待問題を中心にー |
| 6 | 子ども家庭福祉の現状と課題(4)ー社会的養護を中心にー |
| 7 | 子ども家庭福祉の現状と課題(5)ー施設養護の実際ー |
| 8 | 子ども家庭福祉の現状と課題(6)ー障害児、少年非行を中心にー |
| 9 | 子ども家庭福祉に関する法律と歴史的展開 |
| 10 | 子ども家庭福祉領域における現場の実際(1)ー保育所における保育士の役割 |
| 11 | 子ども家庭福祉領域における現場の実際(2)ー保育所保育士の保育実践の実際 |
| 12 | 子ども家庭福祉領域における現場の実際(3)ー保育所保育士の保護者支援 |
| 13 | 子ども家庭福祉領域における現場の実際(4)ー保育所の運営管理 |
| 14 | 子ども家庭福祉の実施体制と財源、子ども家庭福祉の関連法 |
| 15 | 子ども・家庭を取り巻く関連諸機関・施設(1)ー関連機関ー |
| 16 | 子ども・家庭を取り巻く関連諸機関・施設(2)ー関連施設ー |
| 17 | 子ども家庭福祉サービスの担い手と相談援助 |
| 18 | 子ども家庭福祉の展望 |
| 19 | 試験 |
| 20 | 総括ー子ども家庭福祉の意義を考えるー |

令和3年度 年間授業計画（シラバス）

| | | | | | | |
|--------------------------|--|------|----------|---------|-------------|---------|
| 学科名 | 福祉保育科 | | | 教科名 | 子ども家庭支援の心理学 | |
| コース名 | 幼児保育コース | | | 担当者 | 野澤 | |
| 学 年 | 2年 | | | 教科番号 | 2708 | 単位数 2.5 |
| 授業形態 | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 必修・選択の別 | | 必修 |
| | ○ | △ | | | | |
| 授業概要 | <p>保育者は、子どもや子どもの家庭への支援に関して、具体的な実践力の習得が求められる。特に、子どもの発達や家庭状況など、保育や子育て支援の基本となる子どもと家庭への理解が不可欠である。よって本講義では、子どもの発達や学びの過程、生涯発達など、保育や子育て支援に関する内容を包括的に学修する。</p> | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。 5. 保育者による子ども・家庭支援の実際を理解する。 | | | | | |
| 教材名 | 本郷一夫・神谷哲司 編著「子ども家庭支援の心理学」、建帛社、2019年発行 | | | | | |
| 資格の 取得目標 | 保育士資格取得のための必須科目であるため、単位取得を目指す | | | | | |
| 授業内容と 教員の実務経 験の関連性 | 大学教員がその経験を活かし、子ども・家庭支援や心理学に関する講義を行う | | | | | |
| 履修に あたっての 留意点 | 毎回の授業において子ども家庭支援に関する重要な事項を説明するため、休まず出席すること。 | | | | | |
| 評価基準 | ①試験・検定 | ②提出物 | ③授業態度 | ④出席状況 | ⑤外部評価 | 合計 |
| 割 合 | 20% | 40% | 20% | 20% | 0% | 100% |

| 回数 | 講義内容 |
|----|---|
| 1 | オリエンテーションー子ども家庭支援における心理学の意義ー |
| 2 | 乳幼児期から学童期前期にかけての発達 |
| 3 | 学童期後期から青年期、成人期・老年期における発達 |
| 4 | 家族・家庭の意義と機能、親子関係・家族関係の理解 |
| 5 | 子育てを取り巻く社会的状況 |
| 6 | ライフコースと仕事・子育て |
| 7 | 子育ての経験と親としての育ち、子どもの心の健康 |
| 8 | 保育所における子ども家庭支援の実際(1)ー保育所保育士の役割と保育実践 |
| 9 | 保育所における子ども家庭支援の実際(2)ー多様な子ども・家庭の理解 |
| 10 | 保育所における子ども家庭支援の実際(3)ー子どもの生活・成育環境とその影響 |
| 11 | 保育所における子ども家庭支援の実際(4)ー多職種・他機関連携 |
| 12 | 社会的養護領域における子ども家庭支援の実際(1)ー児童養護施設の子どもの家庭支援 |
| 13 | 社会的養護領域における子ども家庭支援の実際(2)ー児童養護施設における保育者の役割 |
| 14 | 社会的養護領域における子ども家庭支援の実際(3)ー児童養護施設における心理職の役割 |
| 15 | 社会的養護領域における子ども家庭支援の実際(4)ー児童養護施設における多職種連携 |
| 16 | 特別な配慮を要する家庭(1)ー子ども・家庭の現状 |
| 17 | 特別な配慮を要する家庭(2)ー子ども虐待への対応と支援 |
| 18 | 特別な配慮を要する家庭(3)ー子どもの保護と権利 |
| 19 | 試験 |
| 20 | 総括ー子ども家庭支援における心理学を考えるー |

令和3年度 年間授業計画（シラバス）

| | | | | | | |
|--------------------------|--|------|----------|---------|-------|---------|
| 学科名 | 福祉保育科 | | | 教科名 | 保育原理 | |
| コース名 | 幼児保育コース | | | 担当者 | 近藤 | |
| 学 年 | 2年 | | | 教科番号 | 2709 | 単位数 2.0 |
| 授業形態 | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 必修・選択の別 | | 必修 |
| | ○ | | | | | |
| 授業概要 | <p>保育の目的を達成するための「子ども理解」を養護と教育の視点から総合的に学び、保育の基礎構造を理解することを目指す。 また子ども一人ひとりの発達を理解する力を養い適切な指導方法や保育方法を考え出す実践的な力を習得する。</p> | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所保育指針における「保育の目標」「子どもの発達」「保育の内容」を理解する。 ・ 子どもや子ども集団の発達の特性や発達過程をふまえ、観察や記録の観点を習得し、保育内容と子どもとのかかわりについて学ぶ。 ・ 子どもの生活全体を通して、養護（生命の保持、情緒の安定）と教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現）が一体的に展開することを具体的な保育実践につなげて理解する。 ・ 保育の多様な展開について具体的に学ぶ。 | | | | | |
| 教材名 | 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定子ども園教育・保育要領 （チャイルド社） | | | | | |
| 資格の 取得目標 | | | | | | |
| 授業内容と 教員の実務経 験の関連性 | 児童館、小・中学校での勤務経験を有する教員がその経験を活かし保育所保育指針の理解を深め近大のレポート及び科目終末試験の指導を行う。 | | | | | |
| 履修に あたっての 留意点 | 近畿大学九州短期大学の科目終末試験とレポート科目です。 また実習の内容にも触れていきますので、欠席のないように。 | | | | | |
| 評価基準 | ①試験・検定 | ②提出物 | ③授業態度 | ④出席状況 | ⑤外部評価 | 合計 |
| 割 合 | 0% | 30% | 40% | 30% | 0% | 100% |

| 回数 | 講義内容 |
|----|----------------------------|
| 1 | 保育所保育指針に基づく保育の基本及び保育内容の理解 |
| 2 | 保育所保育指針に基づく保育内容の理解 |
| 3 | 保育所保育指針にみる内容の変遷 |
| 4 | 保育所保育指針にみる内容の変遷 |
| 5 | 子どもの発達の特徴 |
| 6 | 子どもの発達の特徴と保育内容 |
| 7 | 個と集団の発達と保育内容 |
| 8 | 個と集団の発達と保育内容 |
| 9 | 保育における観察 |
| 10 | 保育における観察 |
| 11 | 養護と教育が一体的に展開する保育 |
| 12 | 環境を通して行う保育 |
| 13 | 遊びによる総合的な保育 |
| 14 | 乳児保育・長時間の保育 |
| 15 | 特別な支援を必要とする子どもの保育・多文化共生の保育 |
| 16 | 特別な支援を必要とする子どもの保育・多文化共生の保育 |
| 17 | 保育の内容構成の基本方針 |
| 18 | ねらい・内容・領域 |
| 19 | 保育の計画作成上の基本的視点 |
| 20 | 保育計画と指導計画 |

令和3年度 年間授業計画（シラバス）

| | | | | | | | |
|--------------------------|--|----|----------|---------|--------|-----|-----|
| 学科名 | 福祉保育科 | | | 教科名 | 社会的養護Ⅱ | | |
| コース名 | 幼児保育コース | | | 担当者 | 割田修平 | | |
| 学 年 | 2年 | | | 教科番号 | 2710 | 単位数 | 1.0 |
| 授業形態 | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 必修・選択の別 | | 必修 | |
| | ○ | | | | | | |
| 授業概要 | <p>児童を取り巻く諸環境の変化に興味を持ちながら、社会的養護の最新状況を理解し、用語の実際や実践に関する論理や技術を学習することを目的とする</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <p>社会的養護の意義を理解しながら、実際の事例を通して、子どもの心身の成長や発達を保障するための基礎的な考え方、方法、そして内容を考える。</p> <p>社会的養護の原理と原則を踏まえて</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会的養護施設の機能と役割を説明できる 2. 自立支援計画や養護の計画を作成できる 3. 事例を通して、施設保育者の役割と意義を学び、自らの意見を述べることができる <p>ことに重点を置く。</p> <p><授業の目標></p> <p>社会的に子どもを保護する施設養護や家庭養護、家庭的養護では、子どもの人権擁護を基本として、子どもと家族の育成に積極的にかかわっていくための知見や技術が必要となっています。このため、（1）社会的養護が必要となる養護問題の現状や背景、（2）社会的養護の体系や児童福祉施設などの役割、（3）児童福祉施設などにおける養護の実際を理解し、児童観や施設養護観を養うことを目標とします。</p> | | | | | | |
| 教材名 | 必要に応じてテキストを配布します | | | | | | |
| 資格の 取得目標 | 保育士資格 | | | | | | |
| 授業内容と 教員の実務経 験の関連性 | | | | | | | |

| | | | | | | |
|-------------|--|------|-------|-------|-------|------|
| 履修にあたっての留意点 | 基本となるの児童福祉法他関連法令に基づく社会的養護の必要性や在り方の学習に加え、近年の保育所待機児童問題、幼児保育無償化などの動きを背景にとくに保育の質に焦点が当てられているなか、現場で着実に必要となる保育士としての資質について、現場の声をできるだけ織り込んだ実践・臨床に役立つ内容としたい。 | | | | | |
| 評価基準 | ①試験・検定 | ②提出物 | ③授業態度 | ④出席状況 | ⑤外部評価 | 合計 |
| 割合 | 20% | 20% | 40% | 20% | 0% | 100% |

| 回数 | 講義内容 |
|----|----------------------------------|
| 1 | オリエンテーション |
| 2 | 社会的養護における援助技術 |
| 3 | 児童福祉施設における子どもの心の理解(1) |
| 4 | 児童福祉施設における子どもの心の理解(2) 具体例を通して学ぶ |
| 5 | 児童福祉施設における養護(援助)の理念 |
| 6 | 児童福祉施設における養護(援助)の内容(1) |
| 7 | 児童福祉施設における養護(援助)の内容(2) 具体例を通して学ぶ |
| 8 | 各児童福祉施設における具体的な養護(援助)の内容 |
| 9 | 家庭支援の基本とその内容(1) |
| 10 | 家庭支援の基本とその内容(2) 具体例を通して学ぶ |
| 11 | 児童福祉施設における社会的養護(援助)の課題 |
| 12 | まとめ～課題 |

令和3年度 年間授業計画（シラバス）

| | | | | | | |
|--------------------------|---|------|----------|---------|----------|---------|
| 学科名 | 福祉保育科 | | | 教科名 | 子ども家庭支援論 | |
| コース名 | 幼児保育コース | | | 担当者 | 櫻井 | |
| 学 年 | 2年 | | | 教科番号 | 2711 | 単位数 4.0 |
| 授業形態 | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 必修・選択の別 | | 必修 |
| | ○ | | | | | |
| 授業概要 | 子どもと家庭を取り巻く環境が大きく変化する中での子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開の現状、課題について理解する。保育者の専門性を生かした子ども家庭支援の意義と必要性について理解し、保育所、幼稚園、認定こども園や地域子育て支援事業などの子育て支援の取り組みから、子育て支援の方法について学ぶ。 | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 現代社会における子育て家庭の現状と課題を理解する。 ・ 子育て家庭に対する支援の意義、目的、方法を理解する。 ・ 保育者の専門性を生かした子育て支援の具体的な取り組みを学び、家庭支援の方法を身につける。 | | | | | |
| 教材名 | 橋本真紀・山懸文治（編）「よくわかる家庭支援論」 ミネルヴァ書房 | | | | | |
| 資格の 取得目標 | | | | | | |
| 授業内容と 教員の実務経 験の関連性 | 幼稚園で勤務経験を有する教員がその経験を生かし、子育て家庭への支援の現状や支援方法について講義する。さらに、近大のレポート及び科目終末試験の指導を行う。 | | | | | |
| 履修に あたっての 留意点 | 近畿大学九州短期大学の科目終末試験とレポート科目のため、合格を目指す。 | | | | | |
| 評価基準 | ①試験・検定 | ②提出物 | ③授業態度 | ④出席状況 | ⑤外部評価 | 合計 |
| 割 合 | 0% | 40% | 40% | 20% | 0% | 100% |

| 回数 | 講義内容 |
|----|--|
| 1 | ガイダンス・オリエンテーション |
| 2 | 現代の子育て家庭と子育て支援・家庭支援 ①家族の形態 |
| 3 | 現代の子育て家庭と子育て支援・家庭支援 ②家族の機能 |
| 4 | 現代の子育て家庭と子育て支援・家庭支援 ③家族を取り巻く地域社会 |
| 5 | 家族支援が求められる背景と意義 |
| 6 | 子育て家庭に対する支援の体制①子育て家庭の福祉を図るための社会資源 |
| 7 | 子育て家庭に対する支援の体制②子育て支援施策・次世代育成支援策の推進 |
| 8 | 家族支援に関わる法・制度について |
| 9 | 虐待に対する家族の背景・現状 |
| 10 | 虐待に対する家族への支援 MY TREEペアレンツプログラムについて（調査学習） |
| 11 | 虐待に対する家族への支援 MY TREEペアレンツプログラムについて（調査学習） |
| 12 | 虐待に対する家族への支援 MY TREEペアレンツプログラムについて（まとめ） |
| 13 | 保育士による家族支援の基本①保育士の求められる役割と基本的態度 |
| 14 | 保育士による家族支援の基本②保育の特性と保育士の専門性を生かした子ども・家族支援 |
| 15 | 保育所における子ども・家族支援について |
| 16 | 保育所における子ども・家族支援の実際 |
| 17 | 幼稚園における子ども・家族支援について |
| 18 | 幼稚園における子ども・家族支援の実際 |
| 19 | 地域子育て支援拠点事業における子ども・家族支援と実際 |
| 20 | 保育所・幼稚園・地域子育て支援拠点事業における在宅子育て家庭への支援 |
| 21 | 多様な支援の展開と関係諸機関との連携①家庭支援の内容と対象 |
| 22 | 多様な支援の展開と関係諸機関との連携②要保護児童及びその家庭に対する支援 |
| 23 | 多様な支援の展開と関係諸機関との連携③専門機関と地域活動の取り組み |
| 24 | 子ども・家族を支援するサービスについて |
| 25 | 保育の場における相談・援助について①相談の特徴と援助方法 |
| 26 | 保育の場における相談・援助について②保護者との相互理解と信頼関係の形成 |
| 27 | 今後の子ども・家族支援について |
| 28 | レポート指導と科目終末試験対策 |
| 29 | レポート指導と科目終末試験対策 |
| 30 | レポート指導と科目終末試験対策 |
| 31 | レポート指導と科目終末試験対策 |
| 32 | レポート指導と科目終末試験対策 |

令和3年度 年間授業計画（シラバス）

| | | | | | | |
|--------------------------|--|------|----------|---------|-------|---------|
| 学科名 | 福祉保育科 | | | 教科名 | 障害児保育 | |
| コース名 | 幼児保育コース | | | 担当者 | 櫻井 | |
| 学 年 | 2年 | | | 教科番号 | 2712 | 単位数 1.0 |
| 授業形態 | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 必修・選択の別 | | 必修 |
| | ○ | | | | | |
| 授業概要 | 「障害児保育」に関する歴史や現状、今後の課題について学ぶ。さらに、障害のある子どもの保育・教育について保育の現場の実践を具体的に解説することで障害児保育の理解を深めていく。 | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害について学び、乳幼児期に見られる障害のある子どもの姿を知る。 ・ 保育園、幼稚園、認定こども園の障害児保育の実践と保育方法を学ぶ。 | | | | | |
| 教材名 | 尾崎康子・小林 真・水内豊和・阿部美穂子(編) 「よくわかる障害児保育」第2版 ミネルヴァ書房 | | | | | |
| 資格の 取得目標 | | | | | | |
| 授業内容と 教員の実務経 験の関連性 | 保育現場での勤務経験を有する教員がその経験を基に、障害児への保育、保護者への支援について講義を行う。 | | | | | |
| 履修に あたっての 留意点 | 各授業の内容について問題意識をもち、自身の考えを发表或し、リアクションペーパーに記入する。 | | | | | |
| 評価基準 | ①試験・検定 | ②提出物 | ③授業態度 | ④出席状況 | ⑤外部評価 | 合計 |
| 割 合 | 0% | 40% | 30% | 30% | 0% | 100% |

| 回数 | 講義内容 |
|----|---------------------------------|
| 1 | ガイダンス・オリエンテーション |
| 2 | 「気になる子」「障害児保育」とは |
| 3 | 肢体不自由児と視覚・聴覚障害児の理解と支援 |
| 4 | 知的障害児の理解と支援 |
| 5 | 発達障害児の理解と支援 ①注意欠陥・多動性障害(ADHD)とは |
| 6 | 発達障害児の理解と支援 ②学習障害(LD)とは |
| 7 | 発達障害児の理解と支援 ③自閉症スペクトラム(ASD)とは |
| 8 | 発達障害児の理解と支援 ④保育所・幼稚園での具体的支援について |

令和3年度 年間授業計画（シラバス）

| | | | | | | |
|--------------------------|---|------|----------|---------|-----------|---------|
| 学科名 | 福祉保育科 | | | 教科名 | 幼児への特別な支援 | |
| コース名 | 幼児保育コース | | | 担当者 | 櫻井 | |
| 学 年 | 2年 | | | 教科番号 | 2713 | 単位数 1.5 |
| 授業形態 | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 必修・選択の別 | | 必修 |
| | ○ | | | | | |
| 授業概要 | 支援を要する子どもの保育の現状と今後の課題を保育現場の事例も含めて学び、実際に保育を行う上で必要となる支援の基礎的な知識を習得する。 | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 特別な配慮を要する子どもが集団生活を経験する保育所・幼稚園・認定こども園での支援方法を学び、支援の実践力を身につける。 ・ 個別の支援計画と評価、個人記録作成方法を学び、園内支援体制について理解する。 ・ 特別な配慮を要する子どもにとっての「遊び」について学び、様々な遊びの必要性を理解する。 ・ 小学校、地域の専門機関との連携について理解する。 ・ 特別な配慮を要する子どもの保護者や家族に対する理解・支援方法について学ぶ。 | | | | | |
| 教材名 | 尾崎康子・小林 真・水内豊和・阿部美穂子(編) 「よくわかる障害児保育」第2版 ミネルヴァ書房 | | | | | |
| 資格の 取得目標 | | | | | | |
| 授業内容と 教員の実務経 験の関連性 | 保育現場での勤務経験を有する教員がその経験を基に、配慮の必要な子どもの保育方法や保護者支援について講義を行う。 | | | | | |
| 履修に あたっての 留意点 | 各授業の内容について問題意識をもち、自身の考えを発表したり、リアクションペーパーに記入する。 スクーリングは、自身の参加目的をしっかりと持ち、現場体験を行う。 | | | | | |
| 評価基準 | ①試験・検定 | ②提出物 | ③授業態度 | ④出席状況 | ⑤外部評価 | 合計 |
| 割 合 | 0% | 40% | 30% | 30% | 0% | 100% |

| 回数 | 講義内容 |
|----|--|
| 1 | ガイダンス 保育所・幼稚園・認定こども園での特別な配慮を要する子どもの保育の現状と課題について |
| 2 | 個々の発達を促す生活や遊びの環境 |
| 3 | 保育過程に基づく個別支援計画の作成と記録および評価 |
| 4 | 職員間の協働について |
| 5 | 保護者や家族に対する理解と支援 |
| 6 | 小学校・地域の専門機関との連携 |
| 7 | 特別な配慮を要する子どもの保育 事例検討 |
| 8 | 特別な配慮を要する子どもの保育の今後の展望 |
| 9 | 児童発達支援施設の見学 |
| 10 | 児童発達支援施設の見学 |
| 11 | 児童発達支援施設の見学 |
| 12 | 児童発達支援施設の見学 |

令和3年度 年間授業計画（シラバス）

| | | | | | | |
|--------------------------|---|------|----------|---------|--------|---------|
| 学科名 | 福祉保育科 | | | 教科名 | 子どもの保健 | |
| コース名 | 幼児保育コース | | | 担当者 | 大井 | |
| 学 年 | 2年 | | | 教科番号 | 2714 | 単位数 2.5 |
| 授業形態 | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 必修・選択の別 | | 必修 |
| | ○ | | | | | |
| 授業概要 | 小児保健は子どもが健康な状態にいることをめざすが、健康を保持するだけでなく増進することも重要な目標（母子保健法第3条）である。幼児保育および教育者を志す者にとって、その目標を達成するための幼児が罹患する疾病、その疾病に予防対策について学ぶ。 | | | | | |
| 到達目標 | 小児保健は子どもが健康な状態にいることをめざすが、健康を保持するだけでなく増進することも重要な目標（母子保健法第3条）である。幼児保育および教育者を志す者にとって、その目標を達成するための疾病予防に寄与するにあたり、幼児が罹患する疾病についての知識を得て、その予防対策について理解する。 | | | | | |
| 教材名 | 竹内義博・大矢紀昭／編「よくわかる子どもの保健」（ミネルヴァ書房） | | | | | |
| 資格の 取得目標 | | | | | | |
| 授業内容と 教員の実務経 験の関連性 | 医療関連の教育経験を有する教員がその経験を活かし子どもの保健について講義を行う | | | | | |
| 履修に あたっての 留意点 | 本講義と並行して実施される実習のなかで本講義によって付与された知識の実践例を確認し、将来の幼児保育および教育の現場で自ら考え行動する姿勢を心がける。 | | | | | |
| 評価基準 | ①試験・検定 | ②提出物 | ③授業態度 | ④出席状況 | ⑤外部評価 | 合計 |
| 割 合 | 60% | 10% | 10% | 20% | 0% | 100% |

| 回数 | 講義内容 |
|----|------------------------------------|
| 1 | 精神保健(1)—子どもの心身の健康と心身症 |
| 2 | 精神保健(2)—発達障害のある子どもとその対応 |
| 3 | 精神保健(3)—育児環境と母親のメンタルヘルス |
| 4 | 精神保健(4)—虐待と子どものトラウマとその対応 |
| 5 | 子どもの疾病(1)—子どもの疾病の特徴、慢性疾患の子どもの抱える問題 |
| 6 | 子どもの疾病(2)—先天性疾患 |
| 7 | 子どもの疾病(3)—循環器疾患 |
| 8 | 子どもの疾病(4)—呼吸器疾患 |
| 9 | 子どもの疾病(5)—消化器疾患 |
| 10 | 子どもの疾病(6)—泌尿器疾患 |
| 11 | 子どもの疾病(7)—代謝、内分泌疾患 |
| 12 | 子どもの疾病(8)—中枢神経疾患 |
| 13 | 子どもの疾病(9)—アレルギー疾患 |
| 14 | 子どもの疾病(10)—血液、腫瘍性疾患 |
| 15 | 子どもの疾病(11)—整形外科疾患 |
| 16 | 身体障害のある子どもとその対応 |
| 17 | 細菌性感染症 |
| 18 | ウイルス性感染症 |
| 19 | 感染症対策と予防接種 |
| 20 | 筆記試験 |

令和3年度 年間授業計画（シラバス）

| | | | | | | |
|--------------------------|--|------|----------|---------|-------|---------|
| 学科名 | 福祉保育科 | | | 教科名 | 幼児と健康 | |
| コース名 | 幼児保育コース | | | 担当者 | 篠原 | |
| 学 年 | 2年 | | | 教科番号 | 2715 | 単位数 1.0 |
| 授業形態 | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 必修・選択の別 | | 必修 |
| | | | ○ | | | |
| 授業概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の発育、発達の特徴をふまえた運動遊びを考え、指導する ・ 遊びのバリエーションを増やす | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 用具を使用しない様々な運動遊びを考え、指導出来る ・ ボールを使用した運動遊びを考え、指導出来る ・ フラフープを使用した運動遊びを考え、指導出来る ・ なわを使用した運動遊びを考え、指導出来る ・ 音楽に合わせた幼児の体操を覚えて指導出来る ・ パラバルーンの特性の理解と実演 <p>※体を動かす楽しさを体感する</p> | | | | | |
| 教材名 | ボール、パラバルーン、フラフープ、なわ、その他（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球） | | | | | |
| 資格の 取得目標 | | | | | | |
| 授業内容と 教員の実務経 験の関連性 | NPO法人のスポーツクラブで子どもや高齢者に運動を教える経験を有する教員がその経験を活かし幼児の健康について体育を通して授業を行う | | | | | |
| 履修に あたっての 留意点 | | | | | | |
| 評価基準 | ①試験・検定 | ②提出物 | ③授業態度 | ④出席状況 | ⑤外部評価 | 合計 |
| 割 合 | 20% | 0% | 40% | 40% | 0% | 100% |

| 回数 | 講義内容 |
|----|---|
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の発育、発達の特徴について ・基本運動(歩く、走る、跳ぶ)を中心とした運動遊びの実践 ・色々な鬼ごっこ ・パラバルーンの特性の理解と実演 |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・エアロビクスダンス(ウォーミングアップ)) ・幼児の体操(ディズニー体操) ・スポーツレク |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・ボールの特性の理解、ボールを使用した運動遊び ・なわの特性の理解、なわを使用した運動遊び ・フラフープの特性の理解、フラフープを使用した運動遊び ・パラバルーンの実演 |
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・エアロビクスダンス(ウォーミングアップ) ・幼児の体操(ディズニー体操) ・スポーツレク |
| 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・運動遊びの指導案の作成 ・パラバルーンの実演 |
| 6 | <ul style="list-style-type: none"> ・エアロビクスダンス(ウォーミングアップ) ・幼児の体操(ディズニー体操) ・スポーツレク |
| 7 | <ul style="list-style-type: none"> ・作成した指導案に基づき運動遊びを指導する |
| 8 | <ul style="list-style-type: none"> ・エアロビクスダンス(ウォーミングアップ) ・幼児の体操(ディズニー体操) ・スポーツレク |

令和3年度 年間授業計画（シラバス）

| | | | | | | |
|--------------------------|--|------|----------|---------|----------|---------|
| 学科名 | 福祉保育科 | | | 教科名 | 子どもの食と栄養 | |
| コース名 | 幼児保育コース | | | 担当者 | 川合 | |
| 学 年 | 2年 | | | 教科番号 | 2716 | 単位数 3.0 |
| 授業形態 | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 必修・選択の別 | | 必修 |
| | ○ | | △ | | | |
| 授業概要 | 乳幼児期から生活習慣の基本となる食習慣を身につけ、病気を予防し健康を維持、増進するためには「食を営む力」を育む「食育」が不可欠です。保育者は胎児期から思春期までの各ライフステージにおける特性、食教育の重要性を理解することを目指します。 | | | | | |
| 到達目標 | <p>①栄養素の機能と食品との関係 ②自分の食生活を振り返り、改善点を見つける。 ③乳幼期の栄養の特徴を知り、乳汁栄養から離乳までの変化を知る。 ④幼児期の心身の発育、発達を理解し、必要な栄養量、間食について学ぶ。 ⑤特別な配慮を要する子どもの食生活、障害児の食生活について学ぶ。 ⑥子どもの食生活の現状と課題を知り、保育者として食育の必要性を学ぶ。 ⑦食育について指導方法と教材について考える。</p> | | | | | |
| 教材名 | ○子どもを知る「子どもの食と栄養」 北大路書房 ○「子どもの食と栄養」 中山書店 ○食事バランスガイド 農林水産省 食事摂取基準2015年 | | | | | |
| 資格の 取得目標 | | | | | | |
| 授業内容と 教員の実務経 験の関連性 | 病院での管理栄養士の経験を有する教員がその経験を活かし乳幼児から青年期までの栄養学について講義を行う | | | | | |
| 履修に あたっての 留意点 | 毎授業での理解度をはかるために、毎回、小テストを実施し、前期末試験で評価する。 食育の一環としての実習をチームワークの一員として参加しているか、評価する。 | | | | | |
| 評価基準 | ①試験・検定 | ②提出物 | ③授業態度 | ④出席状況 | ⑤外部評価 | 合計 |
| 割 合 | 30% | 10% | 20% | 40% | 0% | 100% |

| 回数 | 講義内容 |
|----|--|
| 1 | 三大栄養素、ミネラル、ビタミンの働きと多く含む食品。栄養の消化、吸収、代謝について。 |
| 2 | 自分自身の摂取エネルギー量を知り、バランスよい食事をバランスガイドから知る。 |
| 3 | 身体発育・精神運動機能の発達を知る。 |
| 4 | 摂取機能の発達との関連により栄養評価みる。 |
| 5 | 妊婦前の健康状態の重要性 |
| 6 | 妊婦期・授乳期の栄養と食生活(トラブル時も含む) |
| 7 | 母乳栄養の成分と哺乳量、母乳栄養の利点。人工栄養の調乳法。 |
| 8 | 離乳食の必要性と進め方。離乳食の試食。 |
| 9 | 幼児期の食生活の特徴。間食の意義・質と量。 |
| 10 | 幼児期の栄養上の問題と健康の対応。偏食・下痢・食物アレルギー |
| 11 | 幼児期の食育のねらい。計画・実施 |
| 12 | 施設における食生活 |
| 13 | 疾病におよび体調不良の子どもへの対応 |
| 14 | 食生活と生活習慣病との関連性・心身の健康と食生活習慣との関連性 |
| 15 | 障害の種別ごとの対応 |
| 16 | 嚥下機能低下の食事形態の工夫 |
| 17 | 集団生活での食事づくりの基本。「体によいおやつとは」実習計画 |
| 18 | 実習:手作りおやつ |
| 19 | 学校給食の重要性と食育 |
| 20 | 食育の基本 |
| 21 | 子どもの食生活の実態を知る |
| 22 | 健康支援活動 |
| 23 | 子どもの食と栄養のまとめ |
| 24 | 定期試験 |

令和3年度 年間授業計画（シラバス）

| | | | | | | |
|--------------------------|--|------|----------|---------|-------|---------|
| 学科名 | 福祉保育科 | | | 教科名 | 教育相談 | |
| コース名 | 幼児保育コース | | | 担当者 | 長坂 | |
| 学 年 | 2年 | | | 教科番号 | 2717 | 単位数 4.0 |
| 授業形態 | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 必修・選択の別 | | 必修 |
| | ○ | | | | | |
| 授業概要 | <p>現場に出た際に専門家として子どもや保護者、教職員や関係者らとどのような関わりをしていくのかについて、グループワークなどを通して幅広く学び、支援に関わる基礎的な力を身に付ける。 また、『相談を受ける』とはどのようなことであるのか、支援に繋がるアプローチを多角的に学ぶ。</p> | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの教育・福祉現場に携わる専門家として、支援・援助のあり方について理解を深める。 2. 臨床心理学・発達心理学・教育心理学・カウンセリングなど、浅く広い知識を支援・援助に活かせるよう習得する。 3. 専門家となる自分自身のあらゆる癖を知り、支援・援助に活かす基礎的土台を作り上げる。 | | | | | |
| 教材名 | 石川洋子編集（2016） 子育て支援カウンセリング 幼稚園・保育所で行う保護者の心のサポート 図書文化 担当教員の作成するワークシート式プリント | | | | | |
| 資格の 取得目標 | | | | | | |
| 授業内容と 教員の実務経 験の関連性 | 母子生活支援施設、精神保健福祉センターでの相談員経験を有する教員がその経験を活かし子ども、保護者に対する基本的援助方法について、近大のレポート及び科目終末試験の指導を行う | | | | | |
| 履修に あたっての 留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業内では積極的発言をし、その場にいる全員が授業に参加することで、温かい雰囲気を作る努力をしてほしい。 ・授業を単純に聞くだけでなく、「感じる」「楽しむ」ことを心がけてほしい。 ・レポート及び科目週末試験と提出物・授業内態度の総合で評価する。 | | | | | |
| 評価基準 | ①試験・検定 | ②提出物 | ③授業態度 | ④出席状況 | ⑤外部評価 | 合計 |
| 割 合 | 40% | 20% | 20% | 20% | 0% | 100% |

| 回数 | 講義内容 |
|----|--|
| 1 | オリエンテーション:担当教員の自己紹介、授業概要、方針、評価方法の説明 導入:学生自身の自己紹介、グループワーク(他己紹介など) |
| 2 | 心理学とは:心理学の誕生と発展、心理学の分野 心理学における教育相談:教育相談とは何か |
| 3 | アセスメント:心理検査、研究法(観察法を中心に) 性格検査の体験 |
| 4 | カウンセリングと心理療法:カウンセリングの定義、心理療法の定義、両者の相違点 カウンセリングマインド |
| 5 | カウンセリング:カウンセリングスキル各論 各スキル習得のためのグループワーク |
| 6 | 各スキル習得のためのグループワーク |
| 7 | 各スキル習得のためのグループワーク |
| 8 | 子どもにみられる不適応行動とその理解:不適応行動の種類、見立て、支援 |
| 9 | 子どもにみられる不適応行動とその理解:不適応行動の種類、見立て、支援(グループワーク) |
| 10 | 子どもにみられる不適応行動とその理解:不適応行動の種類、見立て、支援(グループワーク) |
| 11 | 子どもと保護者の支援体制:子育て支援に関する職種、子育て支援における連携・協働の重要性 |
| 12 | 子どもと保護者の支援体制:多職種連携・協働のあり方 |
| 13 | 多職種との連携・協働のあり方:ケースにみる他職種連携・協働(グループワーク) |
| 14 | 養育困難とその支援:養育困難の要因に関する見立てと支援 |
| 15 | 養育困難とその支援:養育困難事例に関する支援(グループワーク) |
| 16 | 虐待とその支援:虐待の種類とその支援 |
| 17 | 虐待とその支援:虐待の種類とその支援(グループワーク) |
| 18 | レポート対策:これまでのまとめとレポート添削 |
| 19 | レポート対策:論述添削 |
| 20 | レポート対策:論述添削 |
| 21 | 子どもにみられる精神疾患:発達障害とその支援 |
| 22 | 子どもにみられる精神疾患:発達障害とその支援(グループワーク) |
| 23 | 保護者世代にみられる精神疾患とその支援:気分障害、統合失調症 |
| 24 | 保護者世代にみられる精神疾患とその支援:不安障害、パニック障害 |
| 25 | 保護者世代にみられる精神疾患とその支援:摂食障害、その他の障害 |
| 26 | 子ども理解に必要な2つの視点:個人理解と集団理解 |
| 27 | 試験対策:これまでのまとめと試験対策 |
| 28 | 試験対策:論述添削 |
| 29 | 試験対策:論述添削 |
| 30 | 試験対策:論述添削 |
| 31 | 学生の希望する内容の講義:事前に学生へアンケートを実施し、学生が希望する心理学に関する講義(これまでは、コラージュ作成、描画の読みとりなど) |
| 32 | 予備日 |

令和3年度 年間授業計画（シラバス）

| | | | | | | |
|--------------------------|--|------|----------|---------|------------------|---------|
| 学科名 | 福祉保育科 | | | 教科名 | 保育実習事前事後指導Ⅰ（保育所） | |
| コース名 | 幼児保育コース | | | 担当者 | 久保田 | |
| 学 年 | 2年 | | | 教科番号 | 2718 | 単位数 2.0 |
| 授業形態 | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 必修・選択の別 | | 必修 |
| | △ | ○ | | | | |
| 授業概要 | 保育実習（保育所）を円滑に行うために必要な事項を学習する。 | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育実習（保育所）の意義・目的・内容といった保育実習の全体的な枠組みを理解する。 ・ 実習前にすべき事項・心構えを理解する。 ・ 実習後の反省と課題を確認する。 | | | | | |
| 教材名 | 幼稚園・保育園・児童福祉施設等実践ガイド（近畿大学九州短期大学通信教育部テキスト） | | | | | |
| 資格の 取得目標 | | | | | | |
| 授業内容と 教員の実務経 験の関連性 | 幼稚園副園長の経験がある教員がその経験を活かし実習指導を行う | | | | | |
| 履修に あたっての 留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育士としての資質とを理解し学習する。 ・ 欠席しないこと。 ・ 真面目に取り組むこと。 | | | | | |
| 評価基準 | ①試験・検定 | ②提出物 | ③授業態度 | ④出席状況 | ⑤外部評価 | 合計 |
| 割 合 | 0% | 20% | 40% | 40% | 0% | 100% |

| 回数 | 講義内容 |
|----|-------------------------|
| 1 | 保育実習とは何か基本的理解 |
| 2 | 演習(絵本・紙芝居の読み聞かせ)と反省会・評価 |
| 3 | 演習(絵本・紙芝居の読み聞かせ)と反省会・評価 |
| 4 | 演習(絵本・紙芝居の読み聞かせ)と反省会・評価 |
| 5 | 演習(絵本・紙芝居の読み聞かせ)と反省会・評価 |
| 6 | 演習(絵本・紙芝居の読み聞かせ)と反省会・評価 |
| 7 | 赤ちゃんの沐浴と授乳の演習 |
| 8 | 演習(紙芝居の実演)と反省と評価 |
| 9 | 演習(紙芝居の実演)と反省と評価 |
| 10 | 演習(紙芝居の実演)と反省と評価 |
| 11 | 演習(紙芝居の実演)と反省と評価 |
| 12 | 演習(紙芝居の実演)と反省と評価 |
| 13 | 保育所実習直前の留意事項の再確認 |
| 14 | 保育所実習を終えて反省会 |
| 15 | 保育所実習を終えて課題を確認 |
| 16 | 総括 |

令和3年度 年間授業計画（シラバス）

| | | | | | | |
|--------------------------|--|------|----------|---------|-----------------|---------|
| 学科名 | 福祉保育科 | | | 教科名 | 保育実習事前事後指導Ⅰ（施設） | |
| コース名 | 幼児保育コース | | | 担当者 | 近藤 | |
| 学 年 | 2年 | | | 教科番号 | 2719-2 | 単位数 1.5 |
| 授業形態 | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 必修・選択の別 | | 必修 |
| | △ | ○ | | | | |
| 授業概要 | 2年次で決定する保育実習Ⅰ（施設）選択に向けた、施設理解を深める。2年次の保育実習Ⅰの総まとめ及び、3年次の責任実習に向けた授業を実施する。 | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの授業、実習を基に子どもの発達に合わせた指導案を作成できる。 ・実習の目的を理解しねらいと課題を設定できる ・3年次に実施する保育実習Ⅰ（施設）に向けた施設理解を深める。 ・3年次の責任実習を見据えた振り返りの時間とし、自分の課題点を認識する。 | | | | | |
| 教材名 | 教育実事前事後指導・近畿大学九州短期大学通信学部テキスト 保育実習実習日誌、配布プリント | | | | | |
| 資格の 取得目標 | | | | | | |
| 授業内容と 教員の実務経 験の関連性 | 児童館、小・中学校での勤務経験を有する教員がその経験を活かし、実習指導を行う。 | | | | | |
| 履修に あたっての 留意点 | 3年次の実習に繋がる授業です。 提出期限等を意識して、計画的に取り組んでください。 | | | | | |
| 評価基準 | ①試験・検定 | ②提出物 | ③授業態度 | ④出席状況 | ⑤外部評価 | 合計 |
| 割 合 | 0% | 40% | 20% | 40% | 0% | 100% |

| 回数 | 講義内容 |
|----|-------------------------|
| 1 | 振り返りシートを記入し自分の実習生活を振り返る |
| 2 | 振り返りシートを活用し自分自身の課題点を知る |
| 3 | 課題点克服の為の計画を作成する |
| 4 | 児童養護施設への理解を深める |
| 5 | 乳児院への理解を深める |
| 6 | 障害者支援施設についての理解を深める |
| 7 | 重症心身障害児施設についての理解を深める |
| 8 | 実習先決定に伴う面談と決定 |
| 9 | 実習先決定に伴う面談と決定 |
| 10 | 責任実習の指導案作成方法を学ぶ |
| 11 | 責任実習の準備を実施 |
| 12 | 責任実習の準備を実施 |

令和3年度 年間授業計画（シラバス）

| | | | | | | |
|--------------------------|--|------|----------|---------|-----------------|---------|
| 学科名 | 福祉保育科 | | | 教科名 | 保育実習事前事後指導Ⅰ（施設） | |
| コース名 | 幼児保育コース | | | 担当者 | 森下 | |
| 学 年 | 2年 | | | 教科番号 | 2719-1 | 単位数 0.5 |
| 授業形態 | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 必修・選択の別 | 必修 | |
| | △ | ○ | | | | |
| 授業概要 | 施設実習先の選択にむけて、施設の役割や機能について理解を深め、そこで働く保育士の役割を理解する。 | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ①保育士がどのような種別の施設で働いているか説明できる。 ②施設における保育士の業務、役割について説明できる。 ③施設を利用する子どもや利用者の特徴、ニーズについて説明できる。 | | | | | |
| 教材名 | 配布プリント等による | | | | | |
| 資格の 取得目標 | | | | | | |
| 授業内容と 教員の実務経 験の関連性 | 保健所にて発達相談員経験と大学での実習指導経験を有する教員がその経験を活かし実習指導を行う | | | | | |
| 履修に あたっての 留意点 | 受講にあたり、各自が専門職を目指すための実習という意識を持ち、主体的に調べたり、発言する姿勢を求める。 | | | | | |
| 評価基準 | ①試験・検定 | ②提出物 | ③授業態度 | ④出席状況 | ⑤外部評価 | 合計 |
| 割 合 | 0% | 20% | 60% | 20% | 0% | 100% |

| 回数 | 講義内容 |
|----|----------------------------|
| 1 | 施設実習の意義 施設保育士の役割 |
| 2 | 子ども、利用者の人権、最善の利益 |
| 3 | 保育士が働く様々な施設の理解 |
| 4 | 施設の利用者の概要、施設のサービス内容についての理解 |

令和3年度 年間授業計画（シラバス）

| | | | | | | |
|--------------------------|--|------|----------|---------|------------|---------|
| 学科名 | 福祉保育科 | | | 教科名 | 教育実習事前事後指導 | |
| コース名 | 幼児保育コース | | | 担当者 | 久保田 | |
| 学 年 | 2年 | | | 教科番号 | 2720 | 単位数 2.0 |
| 授業形態 | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 必修・選択の別 | | 必修 |
| | △ | ○ | | | | |
| 授業概要 | 教育実習の事前・事後指導として、幼稚園の機能や内容教育実習の目的や意義を理解し、教育実習に対する意欲や課題意識を高める。 | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園とは、その内容・機能を理解する。 ・ 実習の意義・目的・内容といった実習の全体的な枠組みを理解する。 ・ 実習までの準備。 ・ 実習中の留意事項について学ぶ。 ・ 実習後の反省・課題をまとめる。 | | | | | |
| 教材名 | 教育実事前事後指導・近畿大学九州短期大学通信学部テキスト | | | | | |
| 資格の 取得目標 | | | | | | |
| 授業内容と 教員の実務経 験の関連性 | 幼稚園副園長の経験がある教員がその経験を活かし実習指導を行う | | | | | |
| 履修に あたっての 留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教諭としての自覚を意識する。 ・ 欠席しないこと。 ・ 真面目に取り組むこと。 | | | | | |
| 評価基準 | ①試験・検定 | ②提出物 | ③授業態度 | ④出席状況 | ⑤外部評価 | 合計 |
| 割 合 | 0% | 20% | 30% | 50% | 0% | 100% |

| 回数 | 講義内容 |
|----|-------------------------|
| 1 | 教育実習とは何か基本的理解 |
| 2 | 演習(絵本・紙芝居の読み聞かせ)と反省会・評価 |
| 3 | 演習(絵本・紙芝居の読み聞かせ)と反省会・評価 |
| 4 | 演習(絵本・紙芝居の読み聞かせ)と反省会・評価 |
| 5 | 演習(絵本・紙芝居の読み聞かせ)と反省会・評価 |
| 6 | 演習(絵本・紙芝居の読み聞かせ)と反省会・評価 |
| 7 | 実習直前の留意事項の確認 |
| 8 | 実習を終えての反省会 |
| 9 | 実習を終えての課題確認 |
| 10 | 子どもの遊びの展開 |
| 11 | 子どもの遊びの展開 |
| 12 | 子どもの遊びの展開 |
| 13 | 子どもの遊びの展開について図式化する。 |
| 14 | 責任実習の理解 |
| 15 | 責任実習の理解 |
| 16 | 総括 |

令和3年度 年間授業計画（シラバス）

| | | | | | | |
|--------------------------|--|------|----------|---------|-------|---------|
| 学科名 | 福祉保育科 | | | 教科名 | 幼児と環境 | |
| コース名 | 幼児保育コース | | | 担当者 | 近藤 | |
| 学 年 | 2年 | | | 教科番号 | 2721 | 単位数 1.0 |
| 授業形態 | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 必修・選択の別 | | 必修 |
| | ○ | | | | | |
| 授業概要 | 環境（指導法）で学んだことを活かし、より実践的な内容に触れる。子どもを取り巻く「環境」の具体的な設定方法やその意図を自分自身で考え、実際の活動に取り入れる方法・手段を検討する。 | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 周囲の環境を活かした活動を構想することができる。 ・ 将来保育者になったときに子どもに、何を学ばせる保育がしたいのか述べるることができる。またその方法を提示することができる。 | | | | | |
| 教材名 | 新しい保育講座 保育内容「環境」（ミネルヴァ）、配付プリント | | | | | |
| 資格の 取得目標 | | | | | | |
| 授業内容と 教員の実務経 験の関連性 | 児童館、小・中学校での勤務経験を有する教員がその経験を活かし保育内容を5領域の環境に焦点をあて講義を行う | | | | | |
| 履修に あたっての 留意点 | 環境（指導法）で学んだことを確認すること。常に「自分だったこうしたい」など活動案をイメージしながら、取り組んでください。 | | | | | |
| 評価基準 | ①試験・検定 | ②提出物 | ③授業態度 | ④出席状況 | ⑤外部評価 | 合計 |
| 割 合 | 0% | 30% | 35% | 35% | 0% | 100% |

| 回数 | 講義内容 |
|----|---------------------------|
| 1 | 領域の意味・領域「環境」とは 環境(指導法)の復習 |
| 2 | 物的環境と人的環境(実習の振り返り) |
| 3 | 地域環境と安全について。 |
| 4 | 家庭環境について。 |
| 5 | 園環境について。 |
| 6 | 保育者に出来る環境作り① |
| 7 | 保育者に出来る環境作り② |
| 8 | 保育者に出来る環境作り③ |

令和3年度 年間授業計画（シラバス）

| | | | | | | |
|--------------------------|---|------|----------|---------|-------|---------|
| 学科名 | 福祉保育科 | | | 教科名 | 幼児と言葉 | |
| コース名 | 幼児保育コース | | | 担当者 | 近藤 | |
| 学 年 | 2年 | | | 教科番号 | 2722 | 単位数 1.0 |
| 授業形態 | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 必修・選択の別 | 必修 | |
| | ○ | | | | | |
| 授業概要 | <p>幼児と言葉との関係、及び、幼児の言葉の獲得と形成について理解する。子どもたちは、さまざまな社会集団(家族、幼稚園、保育園、学校、企業など)を経て、成長していく。その過程でどのように言葉を獲得していくのか、幼児期から言葉を獲得していく過程を検討する。</p> | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児がどのように言葉を獲得していくのか、その経緯を把握する。 ・ 保育の現場で幼児の言葉使い、さまざまな応答、言葉と共に生じるさまざまな行動の意味を理解することの重要性を把握する。 | | | | | |
| 教材名 | こどもと言葉<新訂第2版>(萌文書林) | | | | | |
| 資格の 取得目標 | | | | | | |
| 授業内容と 教員の実務経 験の関連性 | 児童館、小・中学校での勤務経験を有する教員がその経験を活かし保育内容を5領域の「言葉」に焦点をあて講義を行う。 | | | | | |
| 履修に あたっての 留意点 | 授業回数が少ないため、欠席をしないよう体調に留意してください。 | | | | | |
| 評価基準 | ①試験・検定 | ②提出物 | ③授業態度 | ④出席状況 | ⑤外部評価 | 合計 |
| 割 合 | 0% | 30% | 30% | 40% | 0% | 100% |

| 回数 | 講義内容 |
|----|-------------------------|
| 1 | 「幼児と言葉」の概説 |
| 2 | 子どもの遊びと言葉の象徴性 |
| 3 | 子どもの自我の形成と言葉の獲得 |
| 4 | 母子関係と子どもの言葉の始まり |
| 5 | 対人関係と子どもの言葉の発達 |
| 6 | 子どもの情動が発揮する場 |
| 7 | 文字、音楽、絵画、工作などによる表現行為の意義 |
| 8 | 振り返り・確認レポート |

令和3年度 年間授業計画（シラバス）

| | | | | | | |
|--------------------------|--|------|----------|---------|---------|---------|
| 学科名 | 福祉保育科 | | | 教科名 | 幼児と造形表現 | |
| コース名 | 幼児保育コース | | | 担当者 | 亀田 | |
| 学 年 | 2年 | | | 教科番号 | 2723 | 単位数 3.0 |
| 授業形態 | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 必修・選択の別 | 必修 | |
| | △ | | ○ | | | |
| 授業概要 | <p>工芸制作、絵本制作、玩具制作、マニュアル作成『図画工作』と『造形表現指導法』の橋渡しとして、『作る』と『作らせる』の両方から考える。内容は前半工作などの実習を行い、後半造形教育史、幼児造形原理、造形指導計画レポートを行う。1日動物園写生（スクーリング）においては、作品制作に留まらず、そこに望む環境などをレポートする。</p> | | | | | |
| 到達目標 | <p>（1）身近なものと造形を結びつけたものを表現できるようにする。（2）幼児・児童などを教育する上で必要な、作ることの「楽しさ」や「おもしろさ」「動機付け」を考えられるようにする。（3）材料の準備（手配に関すること・廃物利用など）や注意点、安全性・経済性など、制作周辺の環境なども考えられるようにする。（4）制作するプロセスを考え、それを分かりやすく伝える力を身につける。（5）幼児造形様式の特徴と発達一覧表を作り理解できるようにする。（6）1年次の美術的実習をふまえ、造形制作をあらためて教育的見地（造形教育史、造形原理）を習得し、教育史観を持てるようにする。（7）指導計画においては計画書の作成し、行事や実習で学んだ知識を踏まえ、準備や安全性などを考慮して考案できるようにする。</p> | | | | | |
| 教材名 | <p>幼児造形教育の歴史と原理（亀田洋二著）・過去の作品資料幼児造形の歴史と原理（亀田洋二著）・子どもはえがく（斉藤公子著）</p> | | | | | |
| 資格の 取得目標 | | | | | | |
| 授業内容と 教員の実務経験の 関連性 | <p>美術に関する業務経験を有する教員がその経験を活かし表現技法の研究や製作指導を行う</p> | | | | | |
| 履修に あたっての 留意点 | <p>制作時間（×切の意識）；教育実習によって授業履修スケジュールが複雑になる場合があるので、各自タイムスケジュールの管理を徹底すること・完成度の意識・材料等の準備の徹底・清潔な環境・チャレンジ性</p> | | | | | |
| 評価基準 | ①試験・検定 | ②提出物 | ③授業態度 | ④出席状況 | ⑤外部評価 | 合計 |
| 割合 | 0% | 70% | 10% | 20% | 0% | 100% |

| 回数 | 講義内容 |
|----|--|
| 1 | 遊びのサイコロ考案 展開図・サイコロ木材の入手・考案から具体的制作までのプロセスの理解・アイデア |
| 2 | 同／仕入れ・及び下地加工／アイデア |
| 3 | 同／制作 |
| 4 | 同／制作・仕上げ |
| 5 | 絵本制作／蛇腹絵本制作／アイデア |
| 6 | 同／紙購入・裁断／制作 |
| 7 | 同／紙購入・裁断／制作 |
| 8 | 同／制作・仕上げ |
| 9 | 動く玩具／材料手配やりサイクル利用・材料準備 |
| 10 | 同／制作 |
| 11 | 同／制作 |
| 12 | 同／マニュアル作成 |
| 13 | 幼児造形様式の特徴と発達／「こどもはえがく」スライド |
| 14 | ／レポート |
| 15 | 幼児造形様式の特徴と発達一覧表／A3上質紙に表作成 |
| 16 | 同／発達特徴記入 |
| 17 | 同／こどもの絵の特性を記入 |
| 18 | 同／色彩についての特徴を記入 |
| 19 | 同 |
| 20 | 幼児造形教育史 欧米の造形教育史 |
| 21 | 幼児造形教育史 日本の造形教育史 |
| 22 | 小テスト |
| 23 | 図画工作教育概論まとめ/指導計画 指導案の作成 |
| 24 | 同 |
| 25 | 同 |
| 26 | 同 |
| 27 | 動物園写生(スクーリング) |
| 28 | 同 |
| 29 | 同 |
| 30 | 同 |
| 31 | 同 |
| 32 | 同 |

令和3年度 年間授業計画（シラバス）

| | | | | | | |
|--------------------------|---|------|----------|---------|------------|---------|
| 学科名 | 福祉保育科 | | | 教科名 | リズム表現（指導法） | |
| コース名 | 幼児保育コース | | | 担当者 | 篠原 | |
| 学 年 | 2年 | | | 教科番号 | 2724 | 単位数 1.0 |
| 授業形態 | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 必修・選択の別 | 必修 | |
| | | | ○ | | | |
| 授業概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 体や動きで、リズムや様々なものを表現することを学ぶ ・ ダンスの振り付け | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的なステップや動きの習得 ・ リズム体操の指導が出来る ・ フォークダンスの実践 ・ 様々なものを動きで表現出来る ・ お遊戯会の開催 | | | | | |
| 教材名 | プリント配布 | | | | | |
| 資格の 取得目標 | | | | | | |
| 授業内容と 教員の実務経 験の関連性 | NPO法人のスポーツクラブで子どもや高齢者に運動を教える経験を有する教員がその経験を活かし幼児の健康について体育を通して授業を行う | | | | | |
| 履修に あたっての 留意点 | | | | | | |
| 評価基準 | ①試験・検定 | ②提出物 | ③授業態度 | ④出席状況 | ⑤外部評価 | 合計 |
| 割 合 | 20% | 0% | 40% | 40% | 0% | 100% |

| 回数 | 講義内容 |
|----|----------------------------------|
| 1 | ・エアロビクスダンス・リズムダンス |
| 2 | ・音楽のイメージに合った動きづくり・体の各部位を使ったリズムとり |
| 3 | ・自然、動物、生活、感情などを動きで表現する |
| 4 | ・様々なフォークダンス |
| 5 | ・曲の選択・ダンスの振り付けについて |
| 6 | ・ダンスの振り付け |
| 7 | ・作成したダンスの指導、発表 |
| 8 | ・スポーツレクレーション |

令和3年度 年間授業計画（シラバス）

| | | | | | | |
|--------------------------|---|------|----------|---------|-------|------------|
| 学科名 | 福祉保育科 | | | 教科名 | 情報処理Ⅲ | |
| コース名 | 幼児保育コース | | | 担当者 | 戸川 | |
| 学 年 | 2年 | | | 教科番号 | 2725 | 単位数 2.5 |
| 授業形態 | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 必修・選択の別 | 必修 | |
| | △ | | ○ | | | |
| 授業概要 | アプリケーションソフトWordやExcelを利用して、実務レベルの書類や資料作成を学ぶ | | | | | |
| 到達目標 | <p>①実習後のお礼状の書き方、マナー、作成方向を学ぶことができる。</p> <p>②保護者宛の手紙や園だよりの作成ができる。</p> <p>③レポート作成ができる。</p> <p>④実務で活用できる機能について学ぶことができる。</p> | | | | | |
| 教材名 | <ul style="list-style-type: none"> ・実教出版「30時間でマスター Word 2016」 発行者：戸塚雄式 ・実教出版「30時間でマスター Excel 2016」 発行者：戸塚雄式 | | | | | |
| 資格の 取得目標 | | | | | | |
| 授業内容と 教員の実務経 験の関連性 | OA商社、コンピュータ教育関連機関の経験を有する教員がその経験を活かしパソコンの基礎知識と情報モラルの講義を行う | | | | | |
| 履修に あたっての 留意点 | | | | | | |
| 評価基準 | ①試験・検定 | ②提出物 | ③授業態度 | ④出席状況 | ⑤外部評価 | 合計 |
| 割 合 | 0% | 30% | 30% | 40% | 0% | 100% |

| 回数 | 講義内容 |
|----|--|
| 1 | 学習目標、ブラインドタッチ練習、入力測定(10分)、お礼状の書き方、マナー、作成 |
| 2 | お礼状の作成、シナリオの作成、レポート作成 |
| 3 | 園だよりの作成「かまくら通信」の作成 |
| 4 | 〃 |
| 5 | Excelのテキストから 7章データベースの復習 |
| 6 | 7章 ピボットテーブル |
| 7 | 〃 |
| 8 | 〃 |
| 9 | 行列・検索関数(VLOOKUP関数) |
| 10 | 〃 |
| 11 | 〃 |
| 12 | データベース関数(1) |
| 13 | データベース関数(2) |
| 14 | データベース関数(3) |
| 15 | 条件付き集計(SUMIF、AVERAGEIF、COUNTIF関数)(1) |
| 16 | 条件付き集計(SUMIF、AVERAGEIF、COUNTIF関数)(2) |
| 17 | 条件付き集計(SUMIF、AVERAGEIF、COUNTIF関数)(3) |
| 18 | 関数練習問題 |
| 19 | 保育・教職実践演習発表会の見学 |
| 20 | Word、Excelの総まとめ |

令和3年度 年間授業計画（シラバス）

| | | | | | | |
|--------------------------|--|------|----------|---------|-------------|---------|
| 学科名 | 福祉保育科 | | | 教科名 | 保育実習 I (保育) | |
| コース名 | 幼児保育コース | | | 担当者 | 実習園 | |
| 学 年 | 2年 | | | 教科番号 | 2726 | 単位数 5.0 |
| 授業形態 | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 必修・選択の別 | | 必修 |
| | | | ○ | | | |
| 授業概要 | <p>保育士資格を取得するために児童福祉施設(主に保育所)で行う実習である。10日間の実習で、次の内容を学ぶ。①保育所における1日の流れ②子どもへの理解を深める③保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ④保育所等の技術や記録方法について実践的に学ぶ⑤保育士を志すものとしての自覚を高める</p> | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育現場で保育実習を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのように繋がるか理解することが出来る。 ・ 実践を通じて保育の技術、能力を向上させる。 ・ 自分なりの保育観や子ども観を深め確立させる。 | | | | | |
| 教材名 | 保育実習日誌、保育実習事前事後指導 | | | | | |
| 資格の 取得目標 | | | | | | |
| 授業内容と 教員の実務経験の 関連性 | 保育所で勤務している保育士がその経験を活かし見学・観察実習の指導を行う | | | | | |
| 履修に あたっての 留意点 | 保育実習事前事後指導・幼児と音楽表現・以下の指導法①人間関係②健康③環境④言葉⑤造形表現⑥音楽表現(指導法)・教育心理学・幼児の心理学・教育原理・保育原理・社会的養護Ⅰ・子ども家庭福祉、全ての科目を履修していることが実習に於ける要件です。その他の要件は近大の学習便覧で確認すること。 | | | | | |
| 評価基準 | ①試験・検定 | ②提出物 | ③授業態度 | ④出席状況 | ⑤外部評価 | 合計 |
| 割合 | 0% | 50% | 0% | 20% | 30% | 100% |

| 回数 | 講義内容 |
|----|---|
| 1 | 以下の観点から保育所における保育がどのようになされているかを理解する |
| 2 | ①保育所の内容、機能について理解する(保育所の1日の流れやプログラムの理解等) |
| 3 | ②保育所における子どもの理解。(月齢・年齢ごとの子どもの発達とその特徴など) |
| 4 | ③保育所における保育者の職務内容、役割などを理解する。 |
| 5 | ④日誌や指導案の書き方を学ぶ。 |
| 6 | 担当保育者の指導や助言に従い、積極的に保育実習に参加すること |
| 7 | 〃 |
| 8 | 〃 |
| 9 | 〃 |
| 10 | 〃 |
| 11 | 〃 |
| 12 | 〃 |
| 13 | 〃 |
| 14 | 〃 |
| 15 | 〃 |
| 16 | 〃 |
| 17 | 〃 |
| 18 | 〃 |
| 19 | 〃 |
| 20 | 〃 |
| 21 | 〃 |
| 22 | 〃 |
| 23 | 〃 |
| 24 | 〃 |
| 25 | 〃 |
| 26 | 〃 |
| 27 | 〃 |
| 28 | 〃 |
| 29 | 〃 |
| 30 | 〃 |
| 31 | 〃 |
| 32 | 〃 |

| 回数 | 講義内容 |
|----|------|
| 33 | '' |
| 34 | '' |
| 35 | '' |
| 36 | '' |
| 37 | '' |
| 38 | '' |
| 39 | '' |
| 40 | '' |

令和3年度 年間授業計画（シラバス）

| | | | | | | |
|------------------|---|------|----------|---------|-------|---------|
| 学科名 | 福祉保育科 | | | 教科名 | 教育実習② | |
| コース名 | 幼児保育コース | | | 担当者 | 実習園 | |
| 学 年 | 2年 | | | 教科番号 | 2727 | 単位数 5.0 |
| 授業形態 | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 必修・選択の別 | 必修 | |
| | | | ○ | | | |
| 授業概要 | 専門教育科目で獲得した幼児教育に関する知識、技能を活用しながら実践的指導力を体験的にまた総合的に高めていくことを目標とする。この目標を達成するために観察・参加、部分実習をおこなう。 | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園における教育内容や幼稚園の機能について、体験を通して理解する。 ・ 幼稚園教諭の職務および役割について、体験を通して理解する。 ・ 幼稚園での1日の今日行く活動を振り返り観察記録を作成することができる。 ・ 部分実習の指導計画を立案することができる。 | | | | | |
| 教材名 | 教育実習事前指導 | | | | | |
| 資格の取得目標 | 幼稚園教諭2種免許状 | | | | | |
| 授業内容と教員の実務経験の関連性 | 幼稚園で勤務をしている幼稚園教諭がその経験を活かし見学・観察実習の指導を行う | | | | | |
| 履修にあたっての留意点 | 教育実習事前事後指導・幼児と音楽表現・以下の指導法①人間関係②健康③環境④言葉⑤造形表現⑥音楽表現（指導法）・教育心理学・幼児の心理学・教育原理・教育課程総論・教育方法論・教職概論、全ての科目を履修していることが実習にでる要件です。その他の要件は近大の学習便覧で確認すること。 | | | | | |
| 評価基準 | ①試験・検定 | ②提出物 | ③授業態度 | ④出席状況 | ⑤外部評価 | 合計 |
| 割合 | 0% | 50% | 0% | 20% | 30% | 100% |

| 回数 | 講義内容 |
|----|--|
| 1 | 以下のような観察視点方から幼稚園においてどのような活動が、どのような方法で行われているかを把握するに努める。 |
| 2 | ①幼稚園における1日の生活・活動の流れと生活・活動内容の概要 |
| 3 | ②遊び・生活場面での園児の行動 |
| 4 | ③園児の行動に対する幼稚園教諭の対応 |
| 5 | 指導教諭の指導と助言を受けながら、教育活動や園務に積極的に従事する |
| 6 | 〃 |
| 7 | 〃 |
| 8 | 〃 |
| 9 | 〃 |
| 10 | 〃 |
| 11 | 〃 |
| 12 | 〃 |
| 13 | 〃 |
| 14 | 〃 |
| 15 | 〃 |
| 16 | 〃 |
| 17 | 〃 |
| 18 | 〃 |
| 19 | 〃 |
| 20 | 〃 |
| 21 | 〃 |
| 22 | 〃 |
| 23 | 〃 |
| 24 | 〃 |
| 25 | 〃 |
| 26 | 〃 |
| 27 | 〃 |
| 28 | 〃 |
| 29 | 〃 |
| 30 | 〃 |
| 31 | 〃 |
| 32 | 〃 |

| 回数 | 講義内容 |
|----|------|
| 33 | '' |
| 34 | '' |
| 35 | '' |
| 36 | '' |
| 37 | '' |
| 38 | '' |
| 39 | '' |
| 40 | '' |

令和3年度 年間授業計画（シラバス）

| | | | | | | |
|--------------------------|--|------|----------|---------|-----------|---------|
| 学科名 | 福祉保育科 | | | 教科名 | キャリアデザインⅡ | |
| コース名 | 幼児保育コース | | | 担当者 | 近藤 | |
| 学 年 | 2年 | | | 教科番号 | 2728 | 単位数 8.0 |
| 授業形態 | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 必修・選択の別 | | 必修 |
| | ○ | △ | | | | |
| 授業概要 | <p>社会人としての基本的な考え方を習得する。そのため、自己実現へ向けての個別ガイダンスを実施し、社会人になるための協調性を身につける。 初めての実習での心構えを学び実習（保育実習、教育実習）の意義を理解する。 ミスマッチのない就職先の選択ができるよう自己理解を深める。その為、実習評価のフィードバックと振り返りの時間を重視する。</p> | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分のアルスでの目標を実現するために、何をすべきか話することができる。 2. 自分から積極的に挨拶ができるようになる。 3. 時間を守ることができるようになる。 4. ビジネススーツがきちんと着こなすことができるようになる。 5. 社会人として通用する立ち居振る舞いができるようになる。 6. 社会人として恥ずかしくない言葉遣いができるようになる。 7. 就職活動について、自ら報告・連絡・相談ができるようになる。 8. 就職活動を見越し保育・教育・福祉分野でのボランティア活動に自ら参加する意欲が持てるようになる。 9. 実習での振り返りが自分自身でできるようになる。 | | | | | |
| 教材名 | 保育の基本用語（わかば社） 保育のマナーと言葉（わかば社） 幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド（同文書院） | | | | | |
| 資格の 取得目標 | | | | | | |
| 授業内容と 教員の実務経 験の関連性 | 小・中学校、児童館での勤務経験を有する教員がその経験を活かし、実習・就職指導を行う。 | | | | | |
| 履修に あたっての 留意点 | 実習や就職準備を中心に行っていきます。 提出物・準備物の忘れがないようにしてください。 | | | | | |
| 評価基準 | ①試験・検定 | ②提出物 | ③授業態度 | ④出席状況 | ⑤外部評価 | 合計 |
| 割 合 | 0% | 30% | 30% | 40% | 0% | 100% |

| 回数 | 講義内容 |
|----|---|
| 1 | 保育実習・幼稚園実習の履歴書作成 |
| 2 | 保育実習・幼稚園実習の履歴書作成 |
| 3 | 保育実習・幼稚園実習の履歴書作成 |
| 4 | 保育実習・幼稚園実習の履歴書作成 |
| 5 | 1. オリエンテーションの電話の掛け方指導 2. オリエンテーションの電話がけ |
| 6 | 1. オリエンテーションの相談内容の確認 2. 服装等の身だしなみ確認 |
| 7 | ・実習にあたっての注意事項・事前オリエンテーションについて |
| 8 | ・実習にあたっての注意事項・事前オリエンテーションについて |
| 9 | ・実習日誌の書き方指導 |
| 10 | ・実習日誌の書き方指導 |
| 11 | 保育実習準備 |
| 12 | 保育実習準備 |
| 13 | 保育実習準備 |
| 14 | 保育実習準備 |
| 15 | 実習準備(手作りおもちゃ作成) |
| 16 | 実習準備(手作りおもちゃ作成) |
| 17 | 実習準備(手作りおもちゃ作成) |
| 18 | 実習準備(手作りおもちゃ作成) |
| 19 | 学校見学祭の企画立案 |
| 20 | 学校見学祭の企画立案 |
| 21 | 学校見学祭の企画立案 |
| 22 | 学校見学祭の企画立案 |
| 23 | 保育実習報告会 |
| 24 | 保育実習報告会 |
| 25 | お礼状の書き方について |
| 26 | お礼状を作成する |
| 27 | 保育実習フィードバック・学校見学祭の準備 |
| 28 | 保育実習フィードバック・学校見学祭の準備 |
| 29 | 保育実習フィードバック・学校見学祭の準備 |
| 30 | 保育実習フィードバック・学校見学祭の準備 |
| 31 | 夏休みのボランティア活動について確認 |
| 32 | 夏休みのボランティア活動について確認 |

| 回数 | 講義内容 |
|----|---|
| 33 | ボランティア活動の報告発表 |
| 34 | ボランティア活動の報告発表 |
| 35 | 教育実習にあたって・実習日誌の書き方 他 |
| 36 | 教育実習にあたって・実習日誌の書き方 他 |
| 37 | 担任と来年度の実習先の相談をし決定する・就職指導(個人ガイダンス) |
| 38 | 担任と来年度の実習先の相談をし決定する・就職指導(個人ガイダンス) |
| 39 | 担任と来年度の実習先の相談をし決定する・就職指導(個人ガイダンス) |
| 40 | 担任と来年度の実習先の相談をし決定する・就職指導(個人ガイダンス) |
| 41 | ・お礼状・レポート作成 |
| 42 | ・お礼状・レポート作成 |
| 43 | 1. 教育実習の反省点を洗い出す 2. 実習の報告発表 |
| 44 | 1. 教育実習の反省点を洗い出す 2. 実習の報告発表 |
| 45 | 1. 自己ブランディング 3-3-3 「自分はどんな職業人をめざすのか」 |
| 46 | 1. 自己ブランディング 3-3-4 「自分はどんな職業人をめざすのか」 |
| 47 | 1. 自己ブランディング 3-1-1 「自分の仕事能力をどうやって説明するか」 |
| 48 | 1. 自己ブランディング 3-1-2 「自分の仕事能力をどうやって説明するか」 |
| 49 | 面接試験とその対策 |
| 50 | 〃 |
| 51 | 〃 |
| 52 | 〃 |
| 53 | 〃 |
| 54 | 〃 |
| 55 | 〃 |
| 56 | 〃 |
| 57 | 〃 |
| 58 | 〃 |
| 59 | 〃 |
| 60 | 〃 |
| 61 | 〃 |
| 62 | 〃 |
| 63 | 〃 |
| 64 | 〃 |

令和3年度 年間授業計画（シラバス）

| | | | | | | |
|--------------------------|--|------|----------|---------|-------|---------|
| 学科名 | 福祉保育科 | | | 教科名 | 企業実習 | |
| コース名 | 幼児保育コース | | | 担当者 | | |
| 学 年 | 2年 | | | 教科番号 | 2729 | 単位数 2.0 |
| 授業形態 | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 必修・選択の別 | | 選択 |
| | | | ○ | | | |
| 授業概要 | 企業や病院でのインターンシップ（保育科はボランティア活動） | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業や病院の業務を直接体験することによって、基本姿勢を学ぶ。 2. 自分から積極的に挨拶ができるようになる。 3. 社会人として通用する立ち振る舞いを学ぶ。 4. 社会人として恥ずかしくない言葉遣いができる。 5. 自ら報告・連絡・相談ができるようにする。 6. 就職活動を真摯に行う心構えをつくる。 | | | | | |
| 教材名 | 補助プリント | | | | | |
| 資格の 取得目標 | | | | | | |
| 授業内容と 教員の実務経 験の関連性 | | | | | | |
| 履修に あたっての 留意点 | 事前事後指導も評価に含める 提出期限を厳守 | | | | | |
| 評価基準 | ①試験・検定 | ②提出物 | ③授業態度 | ④出席状況 | ⑤外部評価 | 合計 |
| 割 合 | 0% | 30% | 20% | 30% | 20% | 100% |

| 回数 | 講義内容 |
|----|--|
| 1 | 事前学習:1. 趣旨説明2. 書類の説明3. 企業(病院)の選択 4. 実習日誌(目標)記入 |
| 2 | 事前学習:1. 趣旨説明2. 書類の説明3. 企業(病院)の選択 4. 実習日誌(目標)記入 |
| 3 | 実習 |
| 4 | 〃 |
| 5 | 〃 |
| 6 | 〃 |
| 7 | 〃 |
| 8 | 〃 |
| 9 | 〃 |
| 10 | 〃 |
| 11 | 〃 |
| 12 | 〃 |
| 13 | 〃 |
| 14 | 〃 |
| 15 | 事後実習:1. お礼状の送付2. 実習報告書の提出 |
| 16 | 事後実習:1. お礼状の送付2. 実習報告書の提出 |